

感染症の原因である
病原体を調べる、
さまざまな検査が
あります。



細菌やウイルス感染症の一般的な検査をご紹介します。

- ワクチン接種の普及で以前に比べて感染症の発生は大きく減少しています。しかし、ワクチンがカバーしているのは限られた重要疾患だけにとどまります。したがって、生活環境や個々の動物の免疫機能の状態により、さまざまな感染症に罹患するリスクは依然として存在します。
- 下痢や咳、鼻水などのよく見られる症状はウイルスや細菌の感染であることも多く、原因と症状に応じた治療を実施します。特に免疫機能が十分でない子犬や高齢犬では重症化する場合もあるので、注意が必要です。

感染症の検査は個々の病原体ごとに異なる検査がありますが、
現在一般的に実施されているのは、免疫学的検査、培養検査、PCR検査等です。

免疫学的検査

動物の体内に病原体が侵入すると、その病原体と闘うための機能がはたらきます。これを免疫といいます。主な免疫機能として、病原体に結合する抗体の産生があります。抗体は特定の病原体(抗原)に結合することで機能するため、これを利用して血液中にどの病原体に対する抗体があるか、またはどの病原体(抗原)があるかを調べる検査です。

培養検査

動物から採取した病変部や血液、尿などを材料に、その検体中に含まれている病原体を培養し、特定する検査です。



薬剤感受性試験

症状の原因となっている細菌に、どの抗生物質が有効かを
確認する検査です。

PCR検査

検体中に存在する少量の病原体遺伝子を増幅するテクノロジー
(PCR: ポリメラーゼ連鎖反応)を利用した検査です。

感染症の場合は動物から採取した血液や便などの中に
病原体の遺伝子があるかどうかを確認することができます。
他の検査方法による病原体の検出や結果の判定が難しい場合などに
利用されます。下痢や呼吸器症状など、よく見られる症状の
原因となりうる病原体をまとめて効率よく検査することも可能です。